PWE（Paddy and Water Environment）誌の現状と今後の展開
Status Quo and Perspectives of the PWE Journal of PAWEES

増本隆夫*
MASUMOTO Takao*

1. はじめに

これまで、一流英文誌の発刊、インパクトファクター（IF）の取得、モンスーンアジアの水田農業研究の世界への情報発信を目指し、PWE（Paddy and Water Environment）は農業農村工学会が支え、Springer社が発刊する国際誌として一定の評価と位置付けを得てきた。日本側のPWE編集体制を大きく作新して二期4年が経ち、さらに三期目の1年が過ぎた中で、新たな特集号（19-2号、2021年4月、天候インデックス保険）が加わり、少しずつ特徴のある取り組みも増えてきた。同時に、日本、台湾、韓国からの編集員構成も大きく変化し、Chief Managing Editorは韓国の任期に入るなど、さらなる展開が進んでいる。それらの活動を加えながら、同誌の現状と今後を展望する。

2. PWE 掲載論文の現状

PWE は、2003 年創刊から年間 4 号、19 巻の発行を重ねてきた。2017 年からは、それまでの 1 巻あたり 40～50 本の論文印刷数を、80 本前後に増大させた。そのため、2018～2020 年に投稿された筆頭著者の所属国は全世界に及び、まさに国際誌となってきた。ただし、投稿数の上位を占めるのは、インド、イラン、中国、日本（多い順）である。ベトナム、バングラデッシュ、ブラジル、トルコ、豪州、エジプト、インドネシア、ミャンマー等からの投稿も増えてきている。一方で、欧州や北米からの論文数やダウンロード数も一定の割合を占め、当初のモンスーンアジア水田農業の世界への情報発信の目標は達成されてきた。

2020 年の PWE への総投稿数は 230 本であり、多くの投稿数が維持されている中で、同年に査読結果がでた本数は 208 編、その中で、Accept が 49 編（24%）、Reject が 159 編（76%）と受理に至るには厳しい数字が維持されている。一方、2021 年前半でみると、平均で初回投稿から、最初の判定に 29 日、Accept 判定に 258 日、Reject 判定に 55 日と、最初の査読結果が出る時間や reject までの時間は短縮されているが、受理への時間は依然として時間がかかっている（**Table 1**）。

IF については毎年 6 月末頃に公表され、PWE は獲得年（2012 年）0.986 の値から、2013 年の 1.247 を獲得して以降低下傾向になり、0.871（2015 年）との結果に危機感を感じたが、2017 年 1.379 や 2020 年 1.517 へと再び上向きになってきた（**Fig.2**）。IF の数値では農学系では概ね中間位の位置にある。ただし、IF の算定にあたっては、従来の印刷論文から On-line 論文を算定基礎とする方式への変換が行われつつある。

投稿数は年間 200 編以上が維持され、さらに年間の論文ダウンロード数も最近は 5 万件を越え（**Fig.1**）、2021 年も同様に推移していることから、今後はいかに質の高い論文を掲載していくかが重要となる。

Table 1 PWE への投稿状況
Submission status of the papers in PWE

Submissions	2019	2020	2021 (June 8)
Total Submitted	255	230	85
Total Decisioned	247	208	80
Accept	41	49	22
Reject	206	159	58
(Transferred)	(61)	(131)	(56)
Acceptance Rate	17%	24%	28%
Rejection Rate	83%	76%	72%
Average Days to First Decision	46	59	29
Average Days to Final Disposition Accept	297	235	258
Average Days to Final Disposition Reject	36	48	55

3. 特徴的な取り組み

* 秋田県立大学 Akita Prefectural University
キーワード：PWE、インパクトファクター（IF）、編集体制、特集号

新しい編集体制（2016 年 7 月）となってからの PWE の問題点解決の一つとして、IF の向上のため「特別号」を企画した。その結果、2018 年 16(2) に「Rice Ecosystem Services」特集号、引き続いて、17(2)、17(3)に PAWEES 奈良 2018 会議（2018.11/20～11/22、奈良県春日野国際フォーラム）で募集のフルペーパーから選抜した優秀論文（56 本、採択率 44%）「Smart Management of Land, Water and Environment (PAWEES NARA Confer- ence 2018)」特集号を出版した。後者では、掲載論文 2 本が 2020 年の「Paper AWARD」に選ばれ、日本人あるいは日本への留学生論文が多く採択され、喜ばしい結果となった。加えて、2021 年 4 月号（19(2)）として、「Weather Index Insurance for Rice Farmers in Myanmar（ミャンマー稲作農家の天候インデックス保険）」と題する新しい分野の特集号も企画された。

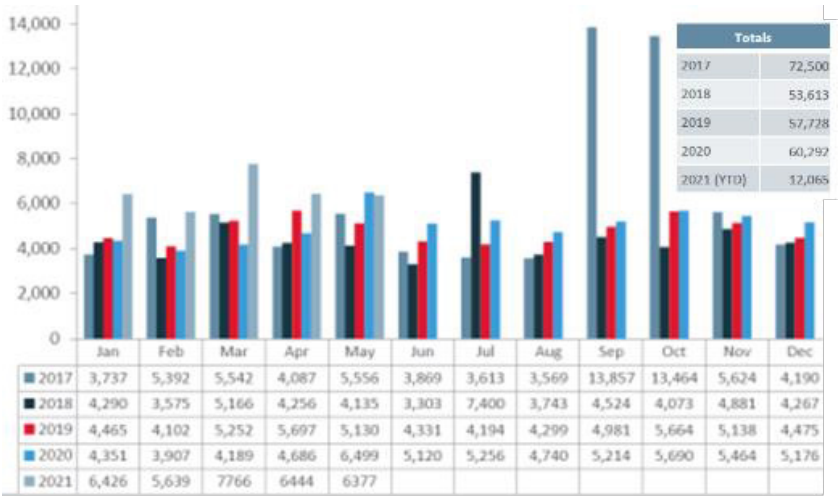

Fig.1 フル論文としてのダウンロード要求数（2017～2021 年）
Full-text articles requests (2017－2021)

4. PWE 誌の第三期新編集体制と今後の展開

2020 年 7 月に新しい日本人の Managing Editor(ME)（3 名）や Editor 諸氏（5 名）を迎えた。各氏には、一期 2 年間の二期の役割分担を期待したい。これまで 5 年間の編集上の取組は、次のように纏められる。①Chief Managing Editor（CME）任期を 2 年とし、台湾（Y-P Lin）、日本（中村公人）、韓国（2020 年 7 月～、Inhong SONG）の順番で交替［3 年後には日本が担当］、②CME（1 名）、ME（6）、Editors（19）の ME の役割明確化と各国増員、Editor の日本人増員（3 から 5）。③印刷物のオンライン配信：従来の印刷数（500 部）を 60 部に縮小、論文掲載本数の増大（各号 20 論文（計約 80 論文）の印刷恒常化）、④PWE 論文情報の農業農村工学会誌掲載「国際ジャーナル PWE 内容紹介」の記事化、⑤組織対応と Editorial Advisors 創設：農研機構、JIRCAS、寒地土研等が組織として編集バックアップと Editing Board の Editorial Advisor (E A)への改称と役割変更等である。特に、④に関しては、タイトル、著者名、要約等を日本語化し紹介してきたが、一定の効果を得てきたため、編集上の労力軽減を目指し欧文要約は取り止めたが、一連の紹介を継続している。

今後の展開としては、IF の更なる向上（2.0 以上の獲得）を目指し、Review papers の企画で各分野から著者候補の抽出、毎号への Editorial の復活、Invited papers の検討等が必要となろう。

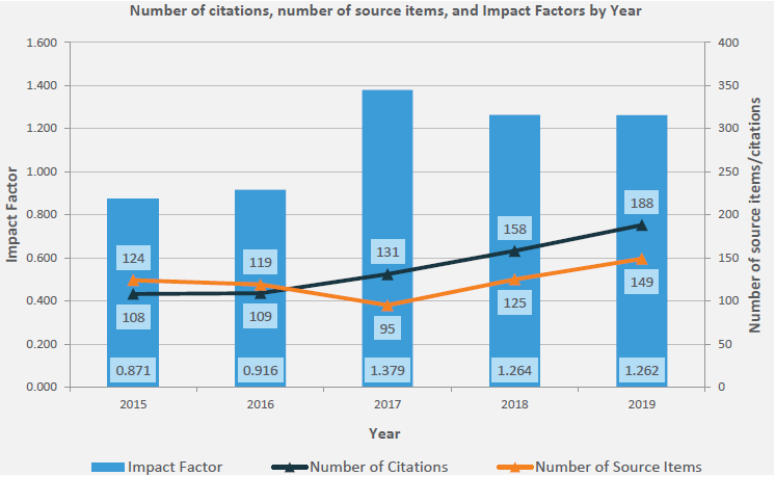

Fig.2 IF の推移
Change of IF of PWE

5. おわりに

特集号企画などの諸活動の効果が IF の向上に繋がることを期待しながら、来年で創刊 20 周年を迎える PWE 誌の今後の推移を見守っていきたい。